

平成 27 年度地域生活支援部会報告

1 経過

地域生活支援部会は、7名の部会委員により、今年度専門部会を計4回開催しました。

1回目は、平成27年5月25日に全体会終了後に開催し、部会長を選出するとともに今年度の協議課題について検討しました。これについて、前年度、「地域における連携」を今年度の協議課題として決定したことを受け、①社会資源の連携、②平成25年度の地域生活支援部会で作成した避難マップの活用が出来ないか、について協議することとしました。これに従い、2回目以降は、臨時委員も迎え、テーマに沿って課題の整理や解決に向けた取り組みについて協議しました。

2 協議内容

(1) 居宅生活者を中心とした社会資源の活用と連携について

第1回専門部会での協議内容を受け、運営会議において「社会資源の連携」のテーマについて具体的に内容を検討しました。その結果、まず、第2回専門部会を居宅会議事業所連絡会と連携して開催し、福祉サービス以外の地域にある社会資源の力を借りて障害者支援が出来ないか、地域で障害者を支える取り組みが出来ないかを検討しました。ここでの協議から、障害の理解や啓発のため、他の自治体で行っているような当事者を交えた地域住民との交流会等を実施することとし、具体的には、先進的に地域の交流を進めている玉縄地区をモデル地区として、可能であれば当事者の声を聞く機会を設けた「地域福祉を考える集まり」とすることとしました。

これを踏まえ、第3回専門部会に玉縄地域で自主的に地域活動を行っている「玉縄台地域福祉を考える集い」関係者や自治会関係者等を臨時委員として招いて具体的な協議を行いました。その後、第3回作業部会での調整等を経て、平成28年1月に、玉縄台自治会館で開催されている「ほっと café 玉縄台」の中の2時間を使って、地域住民に向けた障害啓発と、地域住民と障害者との交流を目的とした「交流会」を実施する運びとなりました。

当日は、障害者10名、支援者2名、専門部会委員6名、運営委員3名に、地域住民等約50名の、総勢70名近い参加者があり、13時半から15時半までの2時間の間、障害についての説明や当事者による自己紹介、当事者と地域住民等の各参加者との間での交歓などが行われ、積極的な交流会となりました。

その後、3月10日に開催された作業部会において、地域関係者も交えた意見交換を行い、今後の活動につなげていくための課題の確認や対応策の検討を行いました。

(2) 避難マップの活用について

上記(1)の玉縄地域での交流会において、参加した地域住民に避難マップを60部、配布しました。併せて、避難マップに記載のある障害についての特徴などを、運営委員より説明し、障害についての理解啓発を行いました。

(3) その他

一昨年度、昨年度に引き続き開催された地域災害弱者防災支援会議主催の

講演会「要支援者の避難 パート3」（平成28年2月27日開催）に、協賛として参加しました。講演会では、東日本大震災時の避難所での体験について、受け入れ事業者側からの講演が行われました。

3 今後の検討事項

平成28年度は、今年度実施した地域における交流会活動の継続を目標に、引き続き、社会資源の連携を目指した取り組みや体制づくりについて協議することとします。